

西尾のお茶の小枝染め

白鷹お召のはなし



山形県白鷹町（しらたかまち）は上杉鷹山公（うえずぎょうざんこう）が養蚕と織物を広めた地。

そして吉良家とも親戚関係の場所でもあります。時代を超えた吉良家と上杉家のコラボの織物です。



お茶で染めるといって、緑を想像される方が多いかもしれませんが、椿科のお茶はグレー系の色が出ます。

皆さんもご存知のように西尾市は抹茶生産量日本一のお茶処。

その地元のお茶を使って着物を作れないかと思ひ、吉良町ともゆかりの深い場所、山形県の白鷹町で白鷹お召という織物を作っていたいただきました。



右の写真のようにみかん箱3杯のお茶の小枝を白鷹町に送り、そこで染めた糸を手織りで織っていきます。無地に見えますが、経糸（たていと）が縞になっているので、無地とは違う立体感と高級感があります。どちらかというところ、カジュアルの織物ですが、少しカチツとした場所にも着られる利用幅の多い、重宝する織物です。

しらたか

## 白鷹の織物と型染展

とき 5月14日（土）～16日（月）

着物・和雑貨のかわちや